

岡山・広島地方の元気なものづくり中小企業

(株)フジワラテクノアート (岡山県)、ヒロボー(株) (広島県)
安田工業(株) (岡山県) 見学記

ATAC では年中行事として一泊研修旅行で優れた技術を持つ中小企業を選んで工場を見学し、見聞を広めると同時に日常のコンサルティングに役立てています。

平成 19 年は 12 月に「元気なモノ作り中小企業 300 社 2007 年度版」(中小企業庁)に記載されている広島・岡山地方の 3 社を選んで見学をしました。

株式会社フジワラテクノアート (岡山県)

本社工場は岡山空港に隣接し、山陽自動車道にも近く、物流に恵まれている。



1933 年の創業で、醤油、味噌、焼酎等

の醸造に関する原料処理から麹作り、仕込み、発酵、压榨などすべての工程に関わる醸造機械を製作している、従業員 120 名、年商約 60 億円のユニークな企業です。

工場は広いスペースを持ったレイアウトで、製麹装置、蒸し米機、焙炒用流動装置、無生育培養装置など多くの装置の組立てが行われていました。

フルターンキー方式の一貫受注システムをとっており、顧客の要望と自らの経験を設計に反映させて常に新技術を盛り込むことを基本としており、製品(醸造機械)納入後のサポートも重視しています。

醸造技術で培ったノウハウを生かして、バイオ、健康食品等の製造機械にも取り組んでいます。バイオ研究所ではカバノアナタケ(樹皮の裏に成育する直径 20 ~ 30cm のきのこ)やハナピラタケの培養実験を行っており、臨床試験も進めています。

コア技術として原料を蒸す、冷やす、麹を作るの三つの技術を挙げ、業界のリーディングカンパニーとの意識を持って製作に当たっており、そのための環境づくりと食の文化を見据えた配慮が伺えました。さらに、製麹技術を生かした新分野開拓も視野に入れており、今後の発展が期待できると感じました。

ヒロボーライブファクトリー (広島県)

ヒロボー(株)は府中市にあり、2006 年に完成した、工場と展示場が一体となった瀟洒なヒロボーライブファクトリーを見学しました。



1973 年にラジコン操作の模型飛行機の事業を開始し、1988 年に産業用無人ヘリコプター「R-50」の生産を開始した、この地域の優秀企業です。産業用ヘリコプターの 1988 年以降の生産機数は 2000 機に達し、国内トップの位置にあります。

産業用無人ヘリコプターは 2m くらいの大きさで、

GPS、加速度センサー、3 軸ジャイロを搭載し、地図データによるコンピューター制御の計画飛行が可能で、機動力を生かした農薬散布・空中撮影・送電線点検監視などの多様な分野で活躍しています。特に世界的に衛生面から有人機での作業が禁止される方向にある農薬散布での活躍が期待されています。

ラジコンで操作する 50cm ほどのホビー用のヘリコプターのデモンストレーションを見ました。操縦は簡単ではないようですが、練習を積み重ねた拳句の技の見せ所がマニアにはたまらないのではないかと感じました。

また、ライブファクトリーの廊下に展示されている数多くの小型飛行機を目の当たりにして、模型飛行機の製作に熱中した少年時代に帰ったような気持ちになり、とても楽しく有意義な見学会でした。

安田工業株式会社 (岡山県)

本社工場は倉敷の西の里庄町にあります。

昭和 14 年創業の超高精度マシニングセンターのトップメーカーで、従業員 260 名、年商 150 億円の企業です。納入先は国内自動車メーカーのほとんど、またジェットエンジン用も手掛けています。

事務職を含め、新入社員は全員、工作機械の摺動部表面の仕上げに欠かせないキサゲ加工を実習し、仕事の基礎を身に付けています。大企業を含むほとんどの日本企業で深刻な問題となっている技術の伝承が、安田工業では社員の定着率が高いことにより、OJT で先輩から後輩に上手く伝わっています。ハード面でもサブミクロンの高精度を守るため、隣接する国道からの振動を完全遮断し、1 年を通して工場内は ± 0.5 、測定室は ± 0.1 の精度で温度制御をしていました。



ロータリーテーブル摺動面のキサゲ

受注 1 件ごとに担当者を指名し、納入後も長期間にわたりサポートしているのが顧客の信頼を得る原動力の一つになっているとの説明でした。また、職場に「5S」の表現はしていませんでしたが、工場内の整理整頓は完璧にされており、高い製品精度と品質維持の基礎が徹底されているのを感じました。

事務所はレイアウト変更が容易なようにフレキシブルな設計としていますが、職場の落ち着きを確保するために床は板張りとしているなど、細やかな配慮をしているのに感心しました。

今回見学した 3 社はいずれもその道の第一人者で、地方でこのような企業が活躍していることに日本のものづくりの底力を感じた 2 日間でした。

(白石・廣谷・坂井記)